

平成22年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 ヤリイカ

学名 *Loligo bleekeri*

系群名 太平洋系群

担当水研 中央水産研究所



生物学的特性

寿命: 1歳
成熟開始年齢: 1歳
産卵期・産卵場: 冬～春季(1～4月)、九州～東北の沿岸各地
索餌期・索餌場: 夏～秋季(8～12月)、九州～東北の太平洋側、北方の冷水域では浅く、南方の暖水域では深い傾向がある、土佐湾では水深100～250mの底層
食性: 外套背長50mmまでは主に小型の浮遊性甲殻類、成長とともにより大型のオキアミ類やアミ類、170mm前後からは魚類
捕食者: 不明

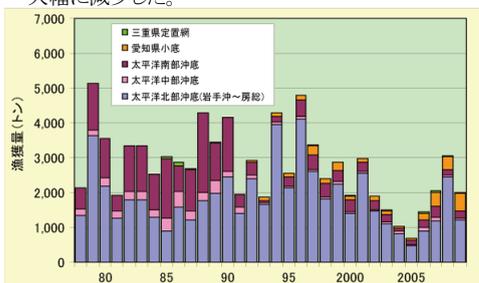


漁業の特徴

太平洋側では岩手県以南の本州、四国及び九州沿岸に広く分布し、主に底びき網等で漁獲される。太平洋北部海域(岩手沖～房総)では1そうびきオッタートロール沖合底びき網(沖底)、太平洋中部海域(伊豆沖～熊野灘)では1そうびき沖底及び愛知県外海小型底びき網(小底)、太平洋南部海域(紀州沖～薩南海域)では主に2そうびき沖底により漁獲される。また定置網でも漁獲される。

漁獲の動向

総漁獲量は1990年までは2,000～5,000トンの間で増減しており、太平洋北部と中部・南部の漁獲量は同程度であった。1991年に南部沖底の漁獲量が急減したことが主な原因で、総漁獲量は1,948トンに減少したが、その後の北部における増加により1996年には4,781トンまで増加した。その後、北部でも減少し2005年には680トンまで減少したが、2006年以降は増加に転じ2008年には主に北部の増加により3,041トンとなったが、2009年では暫定値で1,989トンと大幅に減少した。



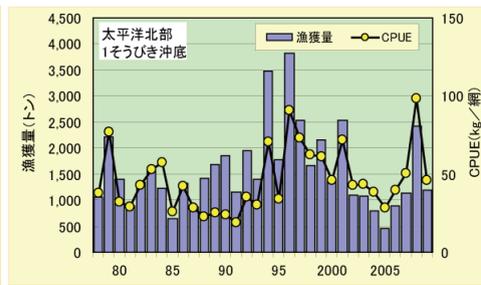
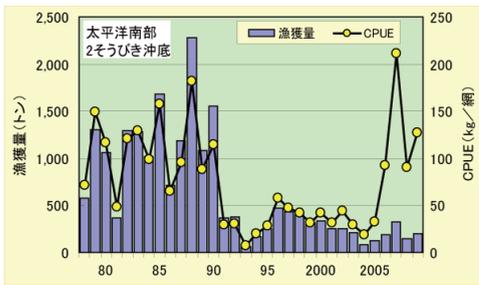
資源評価法

太平洋北部の1そうびきオッタートロール沖底と南部の2そうびき沖底によるCPUE、太平洋中部の1そうびき沖底および愛知県外海小底の漁獲量および調査船による土佐湾での幼イカ採集数を用いた。

資源状態

太平洋南部2そうびき沖底のCPUEは、1978～1990年は比較的高い水準で年変動を繰り返していたが、1991年に急激に減少し、1993年に最低となった。その後低水準が続いていたが、2006年、2007年と連続して豊度の高い発生群が出現したことにより増加した。愛知県外海小底の漁獲量は2006年以降増加傾向にある。太平洋北部1そうびきオッタートロール沖底のCPUEは、1970年代後半から1980年代後半にかけて増減を繰り返しながら減少した後、1990年代に入ると増加に転じて1996年にピークを示した。2002年以降は減少傾向が顕著となり2005年には過去32年間(1978年から2009年)で最低となった。2006年以降は増加傾向となったが2009年には減少した。系群全体では資源水準の変動幅の大きさ、漁獲量の約6割を占める太平洋北部のCPUEの動向から判断して、水準は中位、動向は増加傾向と判断した。





管理方策

漁獲を抑制して資源の回復を図るため、ABCの算定にあたっては過去3年間の漁獲量の平均値をABClimitとし、それに安全率0.8を乗じてABCtargetを算出した。

	2011年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	2,300トン	1.0Cave3-yr	-	-
ABCtarget	1,900トン	0.8・1.0Cave3-yr	-	-

- ABCは100トン未満を四捨五入した値

資源評価のまとめ

- 太平洋南部の漁獲量は2006年、2007年と増加したが、2008年は前年の半分以下に減少したものの、2009年は前年をやや上回った
- 太平洋北部の漁獲量とCPUEは1996年に最高値を示したが、2002年以降減少傾向となり、2005年に最低水準となった。2006年以降は増大したが、2009年は減少した
- 資源水準は中位、動向は増加傾向

管理方策のまとめ

- 漁獲を抑制して資源の回復を図る
- 漁獲量の年変動が大きく、資源変動と環境条件の関係の解明が必要

執筆者: 梨田一也、阪地英男

資源評価は毎年更新されます。